

元気でいてね

小・6 成瀬 咲希

私には、四人の祖父母がいます。父方の祖父母は、豊橋市の西幸町に住んでいます。母方の祖父母は、豊川市のすわ町に住んでいます。そのため、私は幸のじいちゃんばあちゃん、すわのじいちゃんばあちゃんと呼んでいます。どちらの祖父母も、とても元気です。幸の祖父母は朝五時に起きて、ウォーキングをしています。すわの祖父母はボーリングや合唱をやっています。祖父母の家に行くと、父と母が祖父母に、

「体の方、だいじょうぶ？」

と聞きます。すると、祖父母は必ず、

「心配ご無用。」

と胸を張って言いました。

でも、あんなに元気だった二人の祖父が体調をくずしました。幸の祖父が、去年の秋ごろに病気になりました。私は、父に言われるまで知りませんでした。父が、

「幸のじいちゃんは、水頭しようという病気なんだ。」

「え。」

私は、初めて聞く病気にびっくりしました。

あんなに元気だった祖父が病気だなんて、信じられませんでした。

「どうしたら治るの？」

「手術をすれば治るよ。だから、じいちゃん

は手術するんだよ。」

祖父が手術することを聞いて、私は手紙を書くことにしました。手術前のお正月に手紙をあげると、喜んでなみだを流していました。

祖父が、

「咲希、ありがとう。手術がんばるね。」

と言ってくれました。

手術が無事に終わり祖父に会いに行くと、とても元気そうでした。祖母が、

「じいちゃん、手術がんばったよ。手術中がんばるように、ベッドの横に咲希がくれた手紙を置いていたんだよ。」

と言いました。私が書いた手紙を祖父がそんなに大切にしてくれていたと聞いて、とてもうれしい気持ちになりました。私は祖父に、
「じいちゃん、手術がんばったね。じいちゃんが元気になってくれてうれしいよ。」

と言いました。祖父は、

「ありがとう。」

と優しい笑顔と声で言ってくれました。

同じころ、すわの祖父が心筋こうそくで入院しました。ちょうど持久走大会を見に来てくれた翌週のことでした。急すぎることでだったので、手紙を書くことも会いに行くこともできませんでした。母が、

「じいちゃんが心筋こうそくになっちゃったから会いに行ってくる。」

「え、本当に。」

あんなに元気だった祖父が入院だなんて信じ

られませんでした。

次の日に、祖父は緊急手術をしました。手術が無事に終わり、その日の夜に私と弟でビデオ通話をしました。画面ごしの祖父に、私は、

「じいちゃん、だいじょうぶ？」

と聞きました。祖父は、

「だいじょうぶだよ。」

と言ってくれました。私は、とてもほっとしました。

退院した祖父に会いに行くと、いつも通り元気そうでした。私は、

「じいちゃん、すっかり元気になったね。」

と言いました。祖父は、

「心配かけてごめんね。もうだいじょうぶだから。」

と温かい声で言ってくれました。

二人の祖父の体調が回復したので、家族四人と祖父母四人でいっしょにうなぎを食べに行きました。祖父母四人は、とても楽しそうにおしゃべりをしたり、お酒を飲んだりしていました。幸の祖父がすわの祖父に、

「咲希が、手術前に手紙を書いてくれたんですよ。」

と自まんに話している声がよく聞こえました。私は、二人の祖父の会話を聞いて、なんだか照れてしまいました。こうして八人で食事することは初めてだったので、とても楽しかったです。

私は、四人の祖父母がいることが当たり前ではないということを改めて感じました。版画が上手な幸の祖父。クロスワードパズルが得意な幸の祖母。野球が上手なすわの祖父。天ぶらを揚げるのが上

手なすわの祖母。私には、こんなにも素敵な祖父母がいて、本当に幸せです。祖父母には、長生きしてほしいです。四人のじいちゃんばあちゃん、ずっとずっと元気でいてね。